

大 学 院 の 概 要

1. 大学院の沿革と組織
2. 大学院研究科と課程の目的
3. 工学研究科の教育目標・教育方針
4. 情報学研究科の教育目標・教育方針
5. 学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針
6. 学位論文評価基準

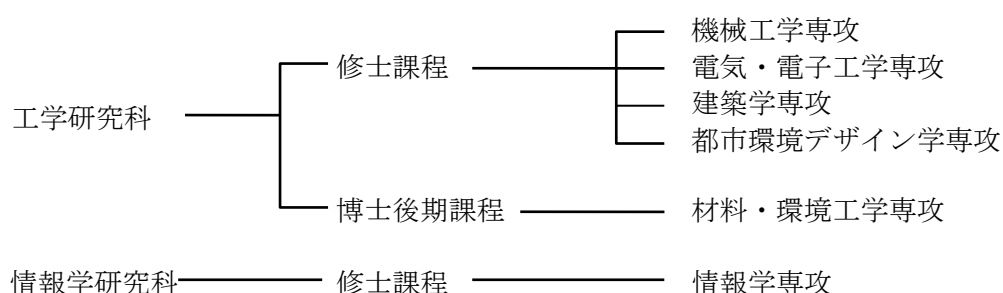
1. 大学院の沿革と組織

沿 革

平成 2 年 4 月	大学院工学研究科を設置 機械工学専攻、電気・電子工学専攻、建設工学専攻の 3 専攻からなる修士課程を開設
平成 7 年 4 月	工学研究科に博士後期課程材料・環境工学専攻を開設
平成 17 年 4 月	情報学研究科を設置 修士課程情報学専攻を開設
平成 18 年 4 月	工学研究科修士課程建設工学専攻の学生募集を停止 工学研究科修士課程に建築学専攻と都市環境デザイン学専攻を開設
平成 20 年 3 月	工学研究科修士課程建設工学専攻を廃止

組 織

現在の大学院研究科の構成は、次のとおりである。



2. 大学院研究科と課程の目的

工学研究科

工学研究科の目的は、次のとおりである。

(目的)

本大学院の工学研究科は、科学の応用である工学を教授研究し、産業を基盤とする人間社会に科学技術面から貢献する優れた人材を育成することを目的とする。(大同大学大学院学則第4条の2の第1項)

情報学研究科

情報学研究科の目的は、次のとおりである。

(目的)

本大学院の情報学研究科は、情報の科学とその広い応用にかかわる情報学を教授研究し、情報社会に貢献する優れた人材を育成することを目的とする。(大同大学大学院学則第4条の2の第2項)

また、両研究科の修士課程および工学研究科の博士後期課程の目的は、次のとおりである。

修士課程

(目的)

修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。(大同大学大学院学則第5条の2の第1項)

博士後期課程

(目的)

博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。(大同大学大学院学則第5条の2の第2項)

3. 工学研究科の教育目標・教育方針

(1) 修士課程

機械工学専攻

大学院工学研究科の教育理念・目標をもとに、機械工学専攻の教育目標・教育方針を次のように定めている。

【機械工学コース】

- ①基礎学力を十分身に付けた、優れた応用開発能力を有する創造性豊かな機械技術者の養成を目的とする。
- ②機械工学の基礎学力を充実高度化させるとともに、自主的な課題解決能力と創造性を育成する。
- ③グローバルな視点に立った幅広い知識を修得させ、コミュニケーション力とリーダーシップを備えた人間性豊かな技術者を養成する。

【総合機械工学コース】

- ① 基盤的な機械工学とともに応用工学を修得し、創造性に富んだ機械技術者の養成を目的とする。
- ② 将来の重要課題である環境、福祉、安全の向上、国際競争力堅持に役立つ機械システム開発者を育成する。
- ③ コミュニケーション能力とリーダーシップを備え、社会に貢献する人間性豊かな技術者を育成する。

電気・電子工学専攻

電気・電子工学は、わが国の産業を幅広い分野で支える基幹工学である。本専攻では電気機器・電子情報産業はもとより、自動車産業など他の業界をも含む社会での多様な要請に、柔軟に対応できる基礎知識および技術の習得を目標とした教育を行う。このためカリキュラムは学部教育から連続性を持たせた構成となっており、専門性の高い教育・研究を行うと共に、全専攻共通の講義により、幅広い知識と高い教養を持った技術者を養成する。

建築学専攻

建築学はわが国の社会基盤を計画・整備する基幹的な学問分野であると同時に、我々の生活に直接関わる居住空間を形成するための最も身近な学問分野といえる。本専攻では、建設業界を始めとする社会の多様な要請に対し、柔軟に対応できる基礎知識および技術の習得を目的とした教育を行う。

このため教育・研究内容には、学部教育からの連続性と幅広い視点から、建設・計画・環境の広い分野に係わる学科目が配置されている。このカリキュラムにより、専門性の高い教育とともに幅広い知識と教養を目指した教育を実施する。

都市環境デザイン学専攻

学習教育目標

a. 教育目標

- 1) 土木・環境コースでは、学際的な視点に立って、持続的発展可能な社会基盤の整備に必要な工学的手法を修得する。かおりデザインコースでは、学際的な視点に立って、快適な住環境の創造に必要な工学的手法を取得する。
- 2) 実験や調査を計画・遂行してデータを正確に分析し、論理的に考察し、まとめて発表できる能力を身につける。

b. 人材の養成目標

- 1) 都市環境デザインの分野において高度で専門的な知識・能力を有する。
- 2) 倫理観に根ざした責任感を持ち、社会に貢献できる。
- 3) 課題を探究して自主的、継続的に学習でき、与えられた制約の下で解決のための過程を構築できる実践的能力がある。また、それらのリーダーシップがとれる。

(2) 博士後期課程

材料・環境工学専攻

博士後期課程は、修士課程のいずれからでも進学できる材料・環境工学専攻の1専攻のみで構成されており、大学院工学研究科の教育理念・目標をもとに、材料・環境工学専攻の教育理念・教育方針を次のように定めている。

- ①材料・環境工学の高度な専門知識を有し、未知の分野を開拓しうる能力を育成できるように、特論、輪講を設けている。
- ②幅広い基礎知識と視野を有し、課題を総合的に理解し追求する能力を育成するために、特別講義を全学科目の分野にわたって行う。
- ③特別研究および論文作成を通じて、創造性豊かな個性を有し、主体的にかつ柔軟に行動する能力を養成する。
- ④上記の授業科目に加えて、学外研修と特別調査演習を設けて、産業界において技術をリードできる高級な技術を養成する。
- ⑤授業科目の選択にあたっては指導教員が、本学および外国人留学生を含む他大学出身者、あるいは社会人それぞれに応じて、きめ細かく個別的に指導する。

4. 情報学研究科の教育目標・教育方針

(1) 修士課程

情報学専攻

近年、情報科学および情報通信技術は飛躍的に発展し、その応用分野を急速に拡大し、さらには我々のライフスタイルにも大きな変化をもたらしている。このような情勢において情報学に課せられる多様な社会的要請に応えるため、本専攻では情報システムコース、情報デザインコース、経営情報コースの3コースを設けて、専門的かつ体系的な教育を多面的に行う。情報システムコースでは、コンピュータとネットワークの基本原理と先進技術を習得し、様々な分野で情報システムの開発・運用に携わることができる人材を育成する。情報デザインコースでは、複雑化・多様化したメディア社会において、情報コンテンツの質的向上ならびに量的拡大を図っていくことができる人材を育成する。経営情報コースでは、経営と情報の複眼的な視点から社会や経済・経営における様々な問題に対して現実的な解決方法に結び付けることができる人材を育成する。

5. 学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針

(1) 工学研究科修士課程

機械工学専攻

[学位授与の方針]

下記の能力を備え、機械工学分野において高度で専門的な技術者として認められる者に学位を授与する。

- ・ 機械工学における高い専門知識を活かして機械および機械システムを総合的に捉え、課題解決ができる。
- ・ 機械工学の知識を有し、設計・製作・解析・評価・管理を行うことができる。
- ・ 先端技術を理解し、新技術に関して興味を持ち続けることができる。
- ・ グローバルな視点に立って幅広い知識を修得できる。
- ・ 人間性に優れ、柔軟な発想とリーダーシップを発揮して問題を解決できる。

[教育課程編成・実施の方針]

学位授与方針の達成のため、論理的思考力、創造力、国際性、問題解決能力の開発を重視し、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

- ・ 工学分野を取り巻く社会環境の幅広い理解のための全研究科共通科目

- ・ 機械および機械システム分野の先進的技術と理論を学修する専攻科目（特論）
- ・ 機械および機械システム分野の先進的技術と理論を実践的に応用する演習科目（特別演習）
- ・ セミナー形式等による修士論文作成のための学修・研究科目（特別研究）

電気・電子工学専攻

[学位授与の方針]

下記の能力を備え、電気電子工学分野において高度で専門的な技術者として認められる者に学位を授与する。

- ・ 電気電子工学分野の基礎的専門知識および技術を持ち、多様な社会に柔軟に対応できる。
- ・ 目標設定とそのための課題解決ができる。
- ・ 先端技術分野を理解し、新技術に対して興味・関心を持ち続ける。

[教育課程編成・実施の方針]

学位授与方針の達成のため、論理的思考力、創造力、自発性、実践能力の開発を重視し、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

- ・ 工学分野を取り巻く社会環境の幅広い理解のための全研究科共通科目
- ・ 電気電子工学の専門知識を得るため、電気エネルギー分野、コンピュータ制御分野、電子材料・デバイス分野の先進的技術と理論を学修する講義科目（特論）
- ・ 電気電子工学分野の先進的技術と理論を実践的に応用する演習科目（特別演習）
- ・ 修士論文の作成と発表を通じ、問題解決能力と創造性を育成するための研究科目（特別研究）

建築学専攻

[学位授与の方針]

下記の能力を備え、建築またはインテリアデザイン分野における高度で専門的な知識を社会の変化に柔軟に対応して活用できる者に学位を授与する。

- ・ 建築またはインテリアデザイン分野の先進的な専門知識を、建築生産活動の実践を通して社会に還元できる。
- ・ 建築またはインテリアデザイン分野の先進的な専門知識を、建築生産活動の現場において、さらに発展させることができる。
- ・ 建築またはインテリアデザイン分野の幅広い基礎知識を有し、社会人としての健全な倫理観に基づいて行動できる。
- ・ 建築家、インテリアデザイナー、あるいは建築技術者として社会の諸問題に幅広い関心を持ち、地域社会のみならず国際社会においても活躍できる。

[教育課程編成・実施の方針]

学位授与方針の達成のため、論理的思考力、創造力、自発性、実践能力の開発を重視し、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

- ・ 工学分野を取り巻く社会環境の幅広い理解のための全研究科共通科目および語学演習科目
- ・ 建築およびインテリアデザイン分野の先進的技術と理論を学修する専攻科目（特論）
- ・ 建築およびインテリアデザイン分野の先進的技術と理論を実践的に応用する演習科目
- ・ セミナー形式等による修士論文作成のための学修・研究科目
- ・ 建築生産活動の先端的現場における実践方法を修得する学外実習科目

都市環境デザイン学専攻

[学位授与の方針]

下記の能力を備え、都市環境デザインの分野において高度で専門的な技術者として認められる者に学位を授与する。

- ・ 実験や調査を計画・遂行してデータを正確に分析、論理的に考察し、それらを整理して発表できる。
- ・ 課題を探究して自主的、継続的に学習でき、与えられた制約の下で解決のための過程を構築できる実践的能力があるとともに、それらのリーダーシップがとれる。

- ・学際的な視点に立って、安全で快適な都市環境、とりわけ持続的発展可能な社会基盤の整備、またはにおい・かおりを考慮した快適な住環境の整備に必要な工学的手法を修得している。
- ・倫理観に根ざした責任感を持ち、社会に貢献したいという高い意欲を有している。

[教育課程編成・実施の方針]

学位授与方針の達成のため、論理的思考力、創造力、自発性、実践能力の開発を重視し、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

- ・工学分野を取り巻く社会環境の幅広い理解のための全研究科共通科目および語学演習科目
- ・学部教育の継続性・関係を重視し、都市環境の多様化に積極的に対応できる高い専門性を持ち社会の発展に寄与できる能力を修得するための講義・演習科目（以下の2コース制により遂行）
- ・土木・環境コース：持続的発展可能な社会基盤を創造していくために必要な構造工学、地盤工学、水・環境工学、都市・交通計画学等の分野を横断的に習得する科目
- ・かおりデザインコース：におい・かおりを考慮した快適な住環境を創造していくために必要なにおい・かおり環境の調査分析手法（測定、成分分析、心身への影響等）を修得する科目
- ・専門領域の課題に対する問題解決能力と創造性を修得するとともに、修士論文の作成・発表を通して論理的思考能力および表現能力を養成する研究科目

（２）工学研究科博士後期課程

材料・環境工学専攻

[学位授与の方針]

下記の能力を備え、材料及び環境工学の分野において、社会で幅広く柔軟に活躍できる高度な技術者として認められる者に学位を授与する。

- ・基盤的・先端的な専門知識を有し、材料・環境システムを総合的に考え、設計・製作・評価・管理することができる。
- ・先端技術や新技術に対して、他分野の技術者・科学者と協働して取り組むことができる。
- ・グローバルな視点から物事を考え、協調性と高い倫理観をもって自ら行動することができる。

[教育課程編成・実施の方針]

学位授与方針の達成のため、大学院工学研究科の教育理念・目標を基とした高度な論理的思考力、創造力、自発性、実践能力の開発を重視し、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

- ・材料・環境工学の高度な専門知識を醸成するための、「機能材料工学」、「電子デバイス工学」、「熱プロセス工学」、「環境材料工学」、「電磁・環境工学」、「環境デザイン工学」の6特論科目
- ・上記の材料・環境工学科目による高度な専門知識を備えつつ、幅広い基礎知識と視野を有し、課題を総合的に理解し追求する能力を育成するための、全学科目分野にわたる特別講義
- ・産業界において技術をリードできる高級な技術を養成するための、学外研修と特別調査演習
- ・加えて、博士の学位に足るための特別研究、論文作成、学術講演

（３）情報学研究科修士課程

情報学専攻

[学位授与の方針]

下記の能力を備え、専門分野において高度で専門的な情報システム技術者として認められ

る者、情報コンテンツに対する社会的要請に応えることができる者、または経営と情報の視点から様々な問題の解決に当たることができる者に学位を授与する。

- ・ 情報システムにおけるコンピュータとネットワークの基本原則と先進技術を理解し、情報システムを開発・運用することができる。
- ・ コンピュータを駆使して、情報コンテンツの制作、製品のデザイン、情報戦略の企画を行なうことができる。
- ・ 経営分野や情報分野の専門的な知識を持ち、社会や経済・経営における様々な問題に対して、現実的な解決方法に結び付けることができる。

[教育課程編成・実施の方針]

学位授与方針の達成のため、論理的思考能力、チャレンジ精神、広い視野と豊かな人間性を身につけさせることを重視し、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

- ・ 情報学分野を取り巻く社会環境の幅広い理解のための全研究科共通科目
- ・ 情報システム・情報デザイン・経営情報の各コースに先進的技術と理論を学修する専攻科目（特論）
- ・ 情報システム・情報デザイン・経営情報の各コースに先進的技術と理論を実践的に応用する演習科目
- ・ セミナー形式等による修士論文作成および研究作品の制作のための学修・研究科目
- ・ 情報分野の先端的現場における実践方法を修得する学外実習科目

6. 学位論文評価基準

学位論文審査における評価基準は、次のように定めている。

(1) 工学研究科修士課程

機械工学専攻

- ①課題設定の明確性
論文の目的が明確で、その意義や重要性が示されていること。
- ②研究方法の妥当性
適切な研究方法が用いられており、その内容に創意工夫があること。
- ③研究領域の理解
先行研究を吟味して研究領域における十分な知識を有し、その領域における自己の研究の位置づけが明確であること。
- ④論旨の明確性
研究目的、研究方法、結果、考察の過程において、その論旨が明確で一貫していること。
- ⑤表現の適切性
論文が体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されていること。
- ⑥学術的波及効果
学術的な独創性や重要性があり、社会的要請にも応える可能性を持つこと。

電気・電子工学専攻

- ①研究の課題設定の明確性
研究の問題設定が明確に示され、研究課題の学術的・社会的な意義が的確に述べられていること。
- ②先行研究・参考資料の理解と提示
研究課題の探求に際して先行研究や資料が十分に参照され、論旨を展開する上で適切に言及されていること。
- ③論文の構成・表現・表記法の適切性
論文の内容及び構成・表現に留意し、データが適切かつ正確に処理されていること。
- ④研究方法の妥当性・論旨の適切性
設定した研究テーマに関して、適切な研究方法、調査・論証方法を採用し、それらに即した具体的な分析・考察がなされていること。

⑤研究発表のプレゼンテーション能力

当該専門分野の修士論文発表会・審査会において、学術研究に相応しい発表・討論を行い、申請者が自立した研究者として活躍していく能力が認められること。

建築学専攻

①課題設定の明確性

明確な問題意識に基づき、建築またはインテリアデザイン分野における課題が提起され、研究の意義や必要性が的確に述べられていること。

②論旨の明確性・一貫性

論文の記述が十分かつ適切であり、研究目的、分析、結果、考察、結論の過程において首尾一貫した論理構成になっていること。

③研究方法の妥当性

設定した課題に対して、適切な研究方法、調査、または実験方法を採用し、それに則って具体的な分析・考察がなされていること。

④得られた成果の学術的または社会的意義

研究成果は課題設定に応える新規性ある知見を導いており、学術的な意義を有していること、又は設計作品は課題設定に応える十分な表現になっており、社会的な意義を有していること。

都市環境デザイン学専攻

①課題設定の明確性

明確な問題認識に基づき、研究の意義・必要性が述べられていること。

②先行研究の情報収集の適切性

研究主題に関する先行研究の調査が適切に行われていること。

③研究方法の適切性

研究主題に対し適切な研究方法を採用していること。

④論旨の妥当性

目的から結論までが論理的に構成されていること。

⑤表現の適切性

論文の記述（本文・図表など）が適切に表現されていること。

⑥研究の貢献

当該研究分野や社会において価値ある成果が含まれていること。

（２）工学研究科博士後期課程

材料・環境工学専攻

①課題設定の新規性と明確性

論文の目的がこれまでに無い新規的なものであり、且つ明確であること。

②研究方法の妥当性

論文の目的を達成するために適切で創意工夫が十分になされた研究方法が用いられていること。

③研究領域の理解

先行研究を幅広く且つ深く俯瞰吟味しており、その領域における自己の研究の位置づけが明確であること。

④論旨の明確性

研究目的、研究方法、結果、考察の過程において、その論旨が明確で一貫していること。

⑤表現の適切性

論文が体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されていること。

⑥学術的独創性と社会的重要性

学術的に唯一無比で独創性且つ重要性があり、社会的に大きな貢献が期待される論文であること。

(3) 情報学研究科修士課程

情報学専攻 情報システムコース

- ①研究課題設定の適切性
広く情報システム学に照らして研究目的や意義が明確であり、課題設定が適切になされていること。
- ②研究方法の妥当性
研究目的を達成するために、適切な立論や解析が行われていること。
- ③新規性・有用性
先行研究の動向を十分に精査した上で、情報システム学分野での新規性あるいは有用性の視点から当該研究の学術的意義が明確になっていること。
- ④論旨の一貫性
論文構成において、その論旨が明確で一貫性を有すること。
- ⑤論文表現の適切性
学位論文としての体裁が整っており、適切な表現により記述されていること。

情報学専攻 情報デザインコース

- ①研究課題設定の適切性
広く情報デザイン学に照らして研究目的や意義が明確であり、課題設定が適切になされていること。
- ②研究及び制作方法の妥当性
研究目的を達成するために、適切な立論や解析を行った上に研究又は作品制作が行われていること。
- ③新規性・有用性
先行研究の動向を十分に精査した上で、情報デザイン学分野での新規性あるいは有用性の視点から当該研究の学術的意義が明確になっていること。
- ④論旨の一貫性
論文構成において、その論旨が明確で一貫性を有すること。
- ⑤論文又は作品表現の適切性
学位論文又は学位作品としての体裁が整っており、適切な表現により記述されていること。

情報学専攻 経営情報コース

- ①研究課題設定の適切性
広く経営情報学に照らして研究目的や意義が明確であり、課題設定が適切になされていること。
- ②研究方法の妥当性
研究目的を達成するために、適切な立論や解析が行われていること。
- ③新規性・有用性
先行研究の動向を十分に精査した上で、経営情報学分野での新規性あるいは有用性の視点から当該研究の学術的意義が明確になっていること。
- ④論旨の一貫性
論文構成において、その論旨が明確で一貫性を有すること。
- ⑤論文表現の適切性
学位論文としての体裁が整っており、適切な表現により記述されていること。

履 修 要 綱

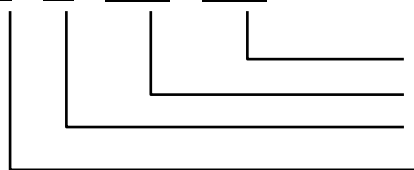
工学研究科・情報学研究科共通等

1. 学籍番号
2. 履修の方法
3. 学位審査論文の申請・提出等
4. 教職課程

工学研究科・情報学研究科共通等

1. 学籍番号

M M 2 1 0 1



個人番号
入学年度
専攻 (※1)
課程 (※2)

(※1)

M：機械工学専攻
E：電気・電子工学専攻
A：建築学専攻
C：都市環境デザイン学専攻
B：情報学専攻
Z：材料・環境工学専攻

(※2)

M：修士課程
D：博士後期課程

2. 履修の方法

(1) 履修登録

学生は履修しようとする授業科目を所定の用紙（大学院履修登録申告書）により、指導教員の承認を受け、所定の期日までに教務室に提出しなければならない。この手続きを経ない授業科目は受講しても単位は与えられない。

(2) 指導教員

- ① 学位論文の作成等に対して指導する大学院担当教員を指導教員という。
- ② 指導教員の決定は入学時に行なう。
- ③ 授業科目の選択は指導教員の承認を必要とする。

(3) 履修に関する注意

<修士課程>

- ① 大学院研究科履修規程に定められているとおり、在学期間中に所定の授業科目を履修し、30 単位以上を修得するほか、指導教員による研究指導を受けなければならない。
- ② 履修する授業科目は、「教育課程表」の中から選択し履修する。
- ③ 教育課程表中の毎週授業時間数で◎印は、大学設置基準に定める所定の授業時間数以上の授業を実施することを意味する。
- ④ 第1年次において、できる限り 20 単位以上を修得しておくこと。
- ⑤ 二重履修は認められない。
- ⑥ 一度合格した授業科目を再度履修することはできない。

<博士後期課程>

- ① 大学院研究科履修規程に定められているとおり、在学期間中に所定の授業科目を履修し、8 単位以上を修得するほか、指導教員による研究指導を受けなければならない。
- ② 履修する授業科目は、「教育課程表」の中から選択し履修する。

(4) 試験

- ① 試験は、科目の担当教員の指示により学期末に行なわれる。
- ② 担当教員によっては、授業期間中適当な時期に試験を行なうことがある。また、レポート等の提出をもって試験の成績に代えることがある。

(5) 成績評価

- ① 成績評価は、優・良・可・不可の4段階とし、可以上を合格とする。
- ② 研究指導の成績評価は、合・否とし、合を合格とする。
- ③ 学位論文及び最終試験の成績評価は、合・否とし、合を合格とする。

3. 学位審査の申請・提出等

<修士課程>

(1) 学位審査の申請

- ① 修士課程修了の要件を満たす見込みがつき、学位論文の審査を受けようとする者は、学位審査の申請を行わなければならない。
- ② 申請者は、指導教員及び専攻長の承認を得た上、学位審査申請書を教務室に提出しなければならない。
- ③ 学位審査の申請は在学中に行なうものとし、申請書等の提出時期は、1月の所定の期間とする。
- ④ 修士課程に2年を超えて在学する見込みの者で、指導教員の判断により論文受理が可能となった場合は、次の時期に学位審査の申請をすることができる。

3月修了予定者	1月	9月修了予定者	7月
6月修了予定者	4月	12月修了予定者	10月

(2) 学位論文の提出

- ① 申請者は、論文及び論文要旨それぞれ正1通、副2通を所定の期日までに、研究科長に提出しなければならない。
- ② 論文及び論文要旨は、「学位論文作成要領」により作成するものとする。

(3) 学位論文作成要領

- ① 提出論文 1編とする。ただし参考論文を添付することができる。(正1通、副2通)
- ② 規 格 A4版とする。
- ③ 表 紙 表紙には下記事項を記載すること。

大 同 大 学 大 学 院			
○ ○ 論 文			
論 文 題 目			
指 導 教 員			
指 導 補 助			
提出年月日	(西暦)年	月	日
○○研究科			
課 程	課程		
専 攻	専攻		
学 籍 番 号			
氏 名			

ただし、「指導補助」は必要に応じ記載する。

④ 本 文

- ・横書きとする。
- ・ページ数を記入し、目次を作成すること。
- ・インキは黒とする。
- ・図表や写真等添付の際は、良質のもので後日、変質・変色しない接着テープ・糊を使用のこと。

⑤ 論文要旨 所定の用紙を使用し、論文内容を1,000字程度にまとめること。

<博士後期課程>

(1) 学位審査の申請

- ① 博士論文提出予定者は論文予備審査を受けなければならない。
- ② 論文予備審査会において博士論文の申請が可能となった場合には、学位審査の申請をすることができる。

(2) 学位審査論文の提出

- ① 申請者は、論文及び論文要旨それぞれ正1通、副3通及び履歴書、論文目論、単位取得証明書を添えて所定の期日までに、学長に提出しなければならない。
- ② 博士(工学)の学位審査の申請は、「学位審査申請の手引」による。

4. 教職課程

(1) 大学院生が取得できる教員免許状は、次のとおりである。

研究科名	専攻名	免許状の種類	免許の 教科	備 考 【教科に関する科目】
工学研究科	機械工学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業	【別表1】
	電気・電子工学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業	【別表2】
	建築学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業	【別表3】
	都市環境デザイン学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業	【別表4】
情報学研究科	情報学専攻	高等学校教諭専修免許状	情報	【別表5】

(2) 高等学校教諭専修免許状を取得するための基礎資格と修士課程における最低取得単位数は次のとおりである。

- ・ 修士の学位を有すること。
- ・ 取得しようとする高等学校教諭専修免許状の同じ教科の高等学校教諭1種免許状を取得するための基礎資格を取得していること。
または、同じ教科の高等学校教諭1種免許状を有すること。
- ・ 大学院修士課程の各研究科において、取得しようとする各専攻の【教科に関する科目】（各別表参照）から24単位以上修得すること。

(3) 各専攻の【教科に関する科目】は、次のとおりである。

【別表 1】《機械工学専攻》

授業科目	備考
材料力学特論 材料強度学特論 環境材料工学特論 機械システム制御特論 溶融成形加工学特論 先端加工学特論 航空熱流体力学特論 変形加工学特論 材料力学特別演習 材料強度学特別演習 環境材料工学特別演習 機械システム制御特別演習 溶融成形加工学特別演習 先端加工学特別演習 航空熱流体力学特別演習 変形加工学特別演習 熱流体シミュレーション特論 環境流体力学特論 トライボロジー設計学特論 変形解析シミュレーション特論 信号処理特論 制御工学特論 加工組織学特論 強度設計学特論 燃焼工学特論 コンピュータビジョン特論 情報処理技術特論 情報機械特論 熱流体シミュレーション特別演習 環境流体力学特別演習 トライボロジー設計学特別演習 変形解析シミュレーション特別演習 信号処理特別演習 制御工学特別演習 加工組織学特別演習 強度設計学特別演習 情報処理技術特別演習 燃焼工学特別演習 情報機械特別演習	左記の科目から 24 単位以上修得すること。

【別表 3】《建築学専攻》

授業科目	備考
建築史特別演習 建築生産特論 建築構造学特論 建築史特論 建築設計特論 空間計画学特論 建築環境学特論Ⅰ 建築環境学特論Ⅱ 建築生産特別演習 建築構造学特別演習 建築設計特別演習Ⅰ 建築設計特別演習Ⅱ 建築設計特別演習Ⅲ 建築環境学特別演習Ⅰ 建築環境学特別演習Ⅱ	左記の科目から 24 単位以上修得すること。

【別表 4】《都市環境デザイン学専攻》

授業科目	備考
構造学特論 環境地盤工学特論 土壌・地下水工学特論 水圏環境学特論 環境工学特論 都市政策特論 交通政策特論 構造学特別演習 環境地盤工学特別演習 土壌・地下水工学特別演習 水圏環境学特別演習 環境工学特別演習 統計解析特別演習 都市・交通計画特別演習	左記の科目から 24 単位以上修得すること。

【別表 2】《電気・電子工学専攻》

授業科目	備考
エネルギー変換工学特論 エネルギー伝送工学特論 制御工学特論 分析・計測工学特論 固体電子工学特論 デバイス工学特論 メカトロニクス特論 電気・電子回路特論 エレクトロニクス実装特論 電気・電子工学特別演習Ⅰ 電気・電子工学特別演習Ⅱ 電気・電子工学特別演習Ⅲ 電気・電子工学特別演習Ⅳ 電気・電子回路特別演習	左記の科目から 24 単位以上修得すること。

【別表 5】《情報学専攻》

授業科目	備考
コンピュータシステム特論 コンピュータビジョン特論 情報統計学特論 音響情報学特論 情報ネットワーク特論 制御システム特論 音声音楽情報処理特論 センシングシステム特論 データ工学特論 システムプログラミング特論 情報社会倫理特論 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ	左記の科目から 24 単位以上修得すること。

5. 卒業要件

修士課程における単位修得の要件

研究科	課程	専攻名	部類	必要単位数	
工学研究科	修士課程	機械工学専攻	[1]講義	12 単位以上	左記条件を満たし 30 単位以上
			[2]演習	8 単位以上	
			[3]研究	6 単位以上	
		電気・電子工学専攻	[1]講義	10 単位以上	左記条件を満たし 30 単位以上
			[2]演習	10 単位以上	
			[3]研究	6 単位以上	
		建築学専攻	[1]講義	10 単位以上	左記条件を満たし 30 単位以上
			[2]演習	6 単位以上	
			[3]研究	6 単位以上	
		都市環境デザイン学専攻	[1]講義	10 単位以上	左記条件を満たし 30 単位以上
			[2]演習	6 単位以上	
			[3]研究	6 単位以上	
情報科学研究科		情報学専攻	[1]講義	12 単位以上	左記条件を満たし 30 単位以上
			[2]演習	8 単位以上	
			[3]研究	6 単位以上	

博士後期課程における単位修得の要件

研究科	課程	専攻名	部類	必要単位数	
工学研究科	博士後期課程	材料・環境工学専攻	特論	4 単位以上	左記条件を満たし 8 単位以上
			特別講義		
			輪講	2 単位以上	
				「学外研修」 「特別調査演習」 の 2 科目から 2 単位以上	
				「特別研究」の 履修	

